

ともに生きる

バラカンが見た アイヌ新世代

放送日：2022年4月10日 放送時間：50分



対象校種 小学校4～6年・中学校・高校

対象教科 総合・社会

この番組の良さ



● 世界に誇れるアイヌ文化

2019年に、「アイヌ民族支援法」(アイヌ新法)が成立し、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指し、施行されました。近年、日本初となるアイヌ民族の歴史や文化を扱った国立博物館や民族共生象徴空間(ウポポイ)が建設され、多くの人々がアイヌ文化を体験できるようになりました。しかし、アイヌ民族には、明治政府の同化政策によって、大切にしてきた伝統的な暮らしや文化の全てを失ってしまった歴史があります。本番組では、ピーター・バラカンが、民族共生象徴空間(ウポポイ)の訪問を通して、若い世代のアイヌの人々取材し、その思いや考え方を紹介しています。視聴を通して、若い世代のアイヌの人々の問題意識や秘められた思いを知ることができます。

● アイヌ文化継承と発展

現在、アイヌ文化を守ろうと努力している人々があります。例えば、母語として話す人がなくなったアイヌ語を学ぼうと取り組む人々や、かつての儀式を見たり、参加したりした経験のない若者たちが、民具や舞踊を復興させるために努力しています。本番組では、アイヌ民族の子孫が文化を復興させ、未来に発展させるために奮闘する姿を知ることができます。

番組活用のポイント

● 我が国の素晴らしい文化・アイヌ民族について学ぶ

日本には、アイヌ民族に興味をもち、身近に感じている児童生徒、学生はどのくらいいるでしょうか。アイヌ民族は、我が国の先住民であり、北海道を中心に生活しながら多くの知恵を伝え、文化を受け継いできました。アイヌ古式舞踊は、我が国の重要無形民俗文化財に指定され、さらにユネスコ無形文化遺産にも登録されています。日本に住む児童生徒、学生たちが、アイヌ民族が生きてきた歴史や尊い文化を学ぶことに教育的な意義があります。アイヌ民族に詳しい専門家に教えてもらうことができない場合でも、番組視聴を通じて、正しい知識を得ることができます。アイヌ民族と伝統文化について学ぶ資料として活用することができます。

● アイヌ民族が尊重される社会へ

アイヌの血を受け継ぐ人々は、自分がアイヌ民族であることを公表せずに暮らすことを選んだり、周りの人々から、アイヌに対する偏見や差別を受けたりしながら成長してきた経験をもつ人が多くいます。同じ日本で暮らす立場であり、我が国の誇りであるアイヌ民族にもかかわらず、なぜ、このような体験をしているのでしょうか。番組視聴では、アイヌ民族が差別をされてきた歴史やアイヌの血を受け継ぐ子孫として生まれた人々の生き方や考え方を知ることができます。彼らの考えを知ることで、アイヌの人々や民族の誇りをもって生きることができる社会、尊重される社会の実現について考える学習に活用できます。

● アイヌ新世代が文化を受け継ぎ、新しい文化を創っていく

現在、アイヌ新世代の若者たちにより、失われた民具や伝統儀式が再現され、文化の復興に取り組む活動が行われています。本番組には、ティーチャーズライブラリー「私のカムイユカラ」で出演していた関根摩耶さん(当時10歳)が、大学生に成長した姿で出演しています。子どもの頃からアイヌを身近に感じて生きてきた摩耶さんは、アイヌである自分を見直す時期がありました。彼女が語るアイヌ新世代の若者たちの生きる姿を通じて、文化継承や発展について考える学習で活用できます。

執筆者
北海道石狩市立双葉小学校
教諭 前多香織



若い人たちがアイヌ文化を身近に感じるために 自分たちができることは何だろう

対象校種

小学校6年生

対象教科

総合

[授業時間 45分] 部分視聴

生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>もし、外国人からアイヌ民族のことを教えてほしい。と言われたら、説明できるかな？</p> <pre> graph TD Q1[もし、外国人からアイヌ民族のことを教えてほしい。と言われたら、説明できるかな？] --> A1[説明できない] Q1 --> A2[少しは説明できるけど...] A1 --- R1[よく知らない] A2 --- R2["北海道の先住民 ・儀式や伝統文化を大切にしている民族"] R1 --> Q2[説明できるほど、アイヌ民族について、正しい情報(知識)をもっていない] R2 --> Q2 Q2 --> V1[番組部分視聴 問題発見(はじめ～10分00秒) アイヌ民族の子孫である山道さんは、どんな問題をもっているのだろうか] V1 --> Q3[失われてしまったものを復興させながら繋げていくことが大切だ なぜ、若い人がアイヌ文化を身近に感じるできていないのか] Q3 --> V2[若い人たちが、アイヌ文化を身近に感じるために、自分たちができることは何だろう] V2 --> Q4[自分たちが学び、身近に感じて、素晴らしさを伝える活動ができる] Q4 --> Q5[どんな方法で何を学び、どのように伝える活動をするのか計画を立てよう] Q5 --> C1((学ぶこと 歴史 生活 考え方 文化(言葉・工芸・舞踊・唄等))) Q5 --> C2((学び方(情報収集) <u>ティーチャーズライブラリー(番組)</u> ・「わたしのカムイユカラ」 ・「バラカンが見たアイヌ新世代」 ・「神々のうた 大地にふたたび ～アイヌ少女・知里幸恵の闘い～」 <u>NHK for school(番組)</u> ・「関根さんのなやみ ～ふるさとを大切にすることでどういこと?～」 <u>インターネットで検索 書籍で調べる</u> <u>専門家に教えてもらう</u>)) Q5 --> C3((伝える相手 校内・地域・他地域の 学校・海外 伝え方 資料提示して直接発表・動画 新聞、リーフレット 等)) C1 --> V3[私は、若い人たちが、アイヌ文化を身近に感じていないことに問題意識をもった。その問題を解決するため、私は、番組やインターネットを活用して、アイヌ語を学び、アイヌ語クイズの動画を作り、アイヌのことを知らない地域の人たちに伝えたいと考えた。] C2 --> V3 C3 --> V3 </pre>	<ul style="list-style-type: none"> 日本好きな外国人から、アイヌ民族について質問されたらと設定し、児童に問う。 なぜそう思ったのか、理由も聞く。 アイヌ民族についてあまりよく知らないことを知る。 アイヌ民族の子孫がもつ問題意識を意識しながら動画視聴へとつなげる。 児童の発言を聞きながら、山道さんの問題意識場面(09:25～10:00)を確認する。 山道さんの抱える問題は、自分たちにも当てはまる問題(アイヌ文化が身近ではない)であることを、児童が気づくように言葉をかける。 自分たちの問題として、何ができるかを児童に問う。 問題を解決するために、どんな計画を立てるとよいか問う。 各児童が、どのような方法で何を学び、伝えるのか計画を考えることを伝える。(自分にとって最善の方法で学ぶ計画を考える。) 問題を解決するために、どのような方法で何を学び、どのように伝えるのか考えた計画を学級全体で交流する。 <p>(学び向かう力 人間性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ文化を身近に感じていないことに関心をもち、自分はどうに関わっていくかを考えることができたか。